

第 34 回 START プログラム (台湾)

2016 年 8 月 21 日から 9 月 5 日までの約 2 週間、第 34 回 START プログラムに学部 1 年生 30 名が参加し、引率の前田直樹講師 (社会科学部) ほか 2 名の職員とともに、台湾にある国立政治大学に短期留学しました。

現地では、4 クラスに分かれての中国語の授業や「台湾の歴史」、「日台関係」、「人権」に関する講義を受けました。初めて中国語を勉強する学生もいましたが、どの学生も日々の授業や宿題などを通じて、外国語でコミュニケーションをとる喜びを感じていました。また、講義では、事前学習で学んだことと現地で実際に感じたことなどを各自で考察し、積極的に内容の濃い発言をしていました。

その他にも、台北二二八纪念馆や国軍歴史博物館、中正紀念堂での施設研修を行いました。また、国立政治大学の学生のアテンドで鄭南榕纪念馆を訪問し、見学中は、展示内容について政治大学の学生に質問をしたり、歴史や文化、個々の趣味や興味のあることなど幅広い話題について情報交換をしたり、交流を深めました。

国立政治大学滞在最終日には、6 グループに分かれ、台湾に関することについてグループ発表を行いました。結論を導くことや発表することの難しさを痛感しつつも、しっかりと準備して臨み、現地講義や現地調査で学んだことを発表しました。

週末は、国共内戦の際、中国大陸との戦線の最前線であった金門島を訪れ、戦いの跡が残る瓊林戰鬥坑道、馬山觀測所、八二三戦史館を見学しました。また、国立金門大学では、副学長を始め学生の温かい歓迎を受け、日台関係についての講義も受けました。国立金門大学生のアテンドにより、戦争遺跡の翟山坑道、金門島の人々の海外移住の歴史を学ぶ水頭僑居文化村及び僑郷文化展示館を見学しました。学生たちは、日本語、英語、中国語を駆使し、時間いっぱい交流を育みました。

事後研修においても、外国語によるコミュニケーションの難しさや自分の意思を伝えることの重要性、自身が大学で専攻している分野への向き合い方、現地の大学生との交流など多岐に渡っての発言が相次ぎ、充実した 2 週間であったことが窺えました。

今回の START プログラムでは初めて中国語を学ぶ学生も多数いましたが、毎日予習復習を欠かさず行い、授業で覚えた事を商店での買い物などの日常生活で実践することにより、日に日に上達していました。現地の人々との交流を通じ、外国語を学ぶことの重要性を認識し、事後研修の際にも「今後も語学の勉強を続けていきたい」と学習意欲をみせている学生が多数いました。他にも「長期留学に挑戦したい」、「自分から積極的に行動することの大切さを知り、大学生生活に生かしたい」など、今回の START プログラムを通して得られた様々な経験をそれぞれの目標に向かって、挑戦していく決意を新たにしていました。



中正紀年堂前での集合写真。
衛兵交代儀式を見学しました



台湾史や日台関係に関する講義



中国語の授業の様子。日本語禁止！
授業は全て中国語でした



金門大学生との交流の時間には、剣道の形を
披露しました